

第10回洛陽市技術研修生 帰国

一年間岡山市内の大学で研修を受けた第10回洛陽市技術研修生3名の内、張 自強氏並びに呂 化周氏が、昨年10月29日に帰国されました。なお戴 涓涓氏は、神戸で引き続き勉学に励んでおられます。

張 自 強

(研修先：岡山理科大学工学部機械工学科)

岡山は山が青く、水がきれいとても美しいところです。岡山の人は優しくて友好的です。これらは私に深い印象を残してくれました。一年間日本で暮らしたことは忘れられません。

友好交流サロンや岡山国際交流センターの日本語の先生方は、熱心に私たちに教えてくださいました。日本語だけではなく先生方の立派な考え方など、いろいろ良い勉強になりました。

私の研修先である岡山理科大学の先生方は、広い知識をお持ちで熱心に指導してください、たくさん専門的な知識を学ぶことができました。先生方の熱心な仕事ぶりにも深く感動しました。

岡山市役所国際課並びに岡山市国際交流協議会には、私たちの暮らしから学習まで大変お世話になりました。生活全般から様々なイベントへの参加、また私たちの健康管理までいろいろお気遣いいただき、この一年間は楽しく過ごせました。

最後に、先生方を始め岡山市役所国際課の方々、私を助けてくださった方々に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。帰国後、私は皆様の温かい心や熱心な仕事を伝えたいと思います。そして、中国と日本の友好と中国の経済発展のために全力を尽くして貢献したいと思います。

呂 化 周

(研修先：岡山理科大学総合情報学部社会情報学科)

私は去年の11月に、研修生として岡山にやって来ました。光陰矢の如し、岡年で一年間の研修生活を送りました。岡山市は素敵な町です。この町がとても気に入りました。美しい山や川など、自然景観にも恵まれています。そして、友好交流に熱心な市民のことは忘れ難いものとなりました。

岡山での一年間で感じたことは色々あります。例えば、国際都市としての意識、環境保全の意識、更に商業サービスの意識や手段等々です。これは私に強い印象を残しました。岡山での一年間の生活の中で、一番忘れ難い人は私の担当教官の若林先生です。先生は行いの正しい、優しい、専門知識の豊富な方です。日常生活と研修生活においては、色々ご援助とご配慮を賜りました。また、一年を通じて市国際課の下で色々なイベントに参加しました。これによって岡山に対する理解と親睦が深まりました。友好交流サロンや岡山国際交流センターで受講した日本語講座や日本文化紹介講座では、日本語の会話能力を向上させることができ、また日本文化を理解することができました。東京、広島、小豆島を訪れ、日本の風光明媚な名所旧跡等を目で見ることができました。とても感激しました。

文化の交流は、心の交流です。物の交流と同じくらい大切なつながりです。洛陽と岡山との交流も、物と心の両面で、これからもっと盛んになるでしょう。

～ 研 修 中 の 3 名 ～



張 自 強 さん
(一番右)



呂 化 周 さん



戴 涓 涓 さん
(中央)

戴 涓 涓

(研修先：岡山商科大学商学部産業経営学科)

一年間の研修が円満に終わりました。早いなと感じた一方、いろんな経験ができて、自分の長い人生の中の短い人生のような気がします。まじめに振り返ってみたら、この一年間はまさに自分の人生のエポック・メイキングと言えます。

来る前にいろいろと日本についてのことを聞いたり、勉強したりしたことがあります。来た後でこの目で見たとはいやほや少し違います。特に旅行でいろんな所に行くと、町ごとに雰囲気全然違います。岡山は静かで落ち着く町です。この一年のうちに岡山市役所国際課を始め、研修先の岡山商科大学の担当教官や教務課の方、私と関わった方々は皆とても親切に接してくれて、本当にお世話になりました。ここでお礼を申し上げたいと思います。

研修の主な目的は勉強なので、この一年しっかり勉強したと思います。経営学領域のマーケティングや経営管理、経営戦略などについて、いろいろ学びました。その中で一度奈良の帝塚山大学での学会に出席しました。それに基づいて、担当教官と岡山老舗企業を対象にして実態調査をしました。その結果を昨年9月に大阪の近畿大学で発表しました。本当に良い勉強になりました。

ところで、私にとって大学での勉強以外では旅行が一番の勉強だと思います。この一年間、休みの時間を利用していろんな所に行きました。東京と大阪の大都会っばさ、京都と宮島と大山の美しい景色、鎌倉と奈良の古都の雰囲気、そして広島原爆ドームや勝山のJAMスキー場、宝塚劇場、高松の四国村など、自分でもびっくりするほどたくさんの所を見学できました。本当に自分の目と肌で日本の文化や歴史や風土などを理解できて、日本という国をだんだん分かってきたような感じがしました。

それから、岡山市のイベントにもたくさん参加しました。まずは一昨年の11月に岡山市主催の第9回岡山市国際交流祭「岡山あいフェスティバル'98」の開会式で、洛陽市の代表として、岡山市長や岡山市議会副議長などと一緒にテーブルカットをして、本当に良い経験になりました。それからホームステイにも参加して、楽しい思い出になりました。後は昨年の6月1日に岡山シンフォニーホールで行われた「岡山市制施行110周年式典」で外国人代表としてメッセージを読むことができて、非常に光栄なことでした。他にもいろいろ参加しましたが、本当に一言では言えません。とにかくこの一年は収穫がいっぱいで、私の人生のエポック・メイキングになると思います。

これからも引き続き経営学の研究を行い、特にマーケティングのノウハウを身に付けて、将来母国、特に洛陽の経済発展に自分の力を尽くそうと思います。

第5回アジア奨学生 帰国

第5回アジア奨学生のソミサイ・テソ氏（ラオス）並びにブン・ロット・ノール氏（カンボジア）が昨年9月24日に、また、モハメド・ラバンディ・ユソフ氏（マレーシア）が昨年10月8日にそれぞれ帰国されました。

ソミサイ・テソ

[受入先：岡山大学大学院工学研究科、研究分野：半導体デバイスの基礎に関する研究]

私は、ラオスから来た研究生のソミサイ・テソと申します。

1998年10月に来岡し、一年が経ちました。私はこの一年の間、岡山大学の工学部電子物理研究室で勉強しました。また、一年間、岡山市役所の方々いろいろお世話になりました。

岡山は、きれいで安全な静かな町です。市民の皆さんはやさしく親切ですし、交通も便利です。

私は、岡山大学でいろいろなことを勉強しました。先生もいろいろ教えて下さいました。また、一年の間に岡山市役所の人達と、東京やいろいろな所を視察しました。とても楽しかったです。

岡山で暮らして、日本の生活や習慣もだいたい分かってきました。国へ帰っても私はみんなのことを忘れません。本当にありがとうございました。

ブン・ロット・ノール

受入先：岡山大学大学院工学研究科
研究分野：材料科学及び鉱物資源濃縮

私がカンボジアを離れ、岡山にやって来てから一年が経ちました。この間、日本語の勉強はおもしろくて楽しかったです。日本語は毎日話したり勉強したりするために必要です。

この一年間は、見るもの全てが新鮮で、毎日が変化に富んでいました。特に日本の四季には趣があり、興味深く感じられました。桜が美しく景色を飾る春、太陽が激しく照り付ける夏、紅く染まった山々が哀愁を漂わす秋、そして雪の降る冬、私にとって全てが初めての体験でした。お正月、お盆、ひな祭りなどの古くからの行事や習慣が、今まで伝わっており、近代的なイメージを抱いて日本に来た私は、そんな社会の中にも昔ながらの伝統を重んじているということに少し驚きを感じました。このような日本人の特徴としては、約束をきちんと守ることがあげられます。例えば、日本の電車や新幹線は外国と違って時間どおりに出発します。この事に対して、私は非常に好印象を受けました。

私は岡山大学で機械材料を研究しました。この分野の研究は私の国にとって最も重要な研究課題の一つとなっています。

早くも一年が過ぎましたが、日本でやりたいことはまだまだ残っています。これからも岡山の人々との触れ合いを大切に、有意義な生活を送れるよう、一生懸命頑張りたいと思います。

モハメド・ラパンディ・ユソフ

受入先：岡山理科大学工学部応用化学科
研究分野：アミノリシス反応に対する界面活性剤の添加効果についての速度論的研究

私は、平成10年11月1日にアミノリシス反応に対する界面活性剤の添加効果についての速度論を研究するために日本に来ました。

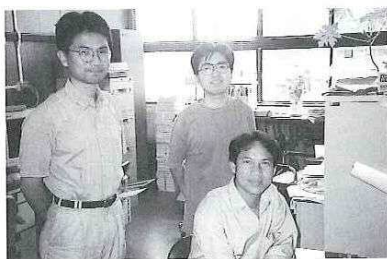
私にとって岡山での一年間は短かったと思います。もっと長い期間、岡山理科大学で研究したいと思います。一年間の研究はとても大変でしたが、良い勉強になりました。研究中でも色々な新しい経験があったからとても楽しかったです。

私が出た一番大事なことは日本語の勉強です。日本に来る前には“ひらがな”と“カタカナ”を知らなかったのですが、日本で一年間日本語を勉強したので今は漢字も読めます。日本語の授業はとても楽しかったです。友達もたくさん出来ました。日本語の勉強は本当に頑張りました。

日本での一年の間、勉強だけではなくて旅行にも行きました。日本には本当にたくさん良い所があります。色々な所に行ったのですが、富士山に行けなかったことがとても残念でした。

最後に、今までたくさんの方の手助けをいただきお世話になりました。もし機会があったら、また日本の大学で勉強したいと思います。皆さん本当にありがとうございました。

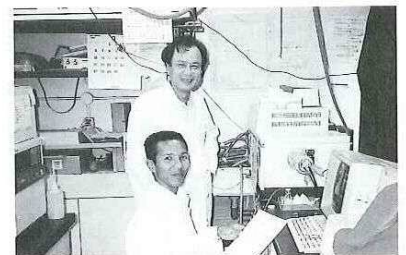
～ 研究室にて ～



ソミサイ・テソさん
(一番右)



ブン・ロット・ノールさん



モハメド・ラパンディ・ユソフさん
(手前)

第11回洛陽市技術研修生 来岡

第11回洛陽市技術研修生の3名が昨年10月15日に来岡され、受入れ先である岡山理科大学でそれぞれの専門分野の研修を受けています。3名は、研修の傍ら国際交流イベント等にも積極的に参加され、市民との交流を図っています。



氏名 周国強 (しゅう こつきょう)
 研修先 岡山理科大学総合情報学部社会情報学科
 研究分野 自然・経済地理、環境計画及び管理
 職業 洛陽大学環境学部助教授



氏名 徐斌 (じょ ひん)
 研修先 岡山理科大学工学部機械工学科
 研究分野 換熱装置中の流動と熱伝導、
 内燃機燃焼過程
 職業 洛陽工学院機械設計学部助教授



岡山あいフェスティバルの事業の一環で「高松歴史と音楽の祭り」へ参加したときのひとこま。



氏名 陳振偉 (ちん しんい)
 研修先 岡山理科大学工学部情報工学科
 研究分野 コンピューター管理と応用
 職業 洛陽合成洗剤工場企画管理事務室主任

第8回岡山市技術研修生 洛陽市へ派遣

応募者11名（女性8名、男性3名）の中から選ばれた第8回岡山市技術研修生の3名が、今年4月洛陽市へ出発しました。3名は、一年間洛陽市内の大学で中国語の語学研修を受けるとともに、岡山市からの親善大使として洛陽市民との交流を深めていただきます。皆さん、体に気をつけて頑張ってください！



児 子 睦 美

この度、岡山市の技術研修生に選ばれ、中国語を身につける機会を与えていただきました。中国語を身につけることで、岡山の人に中国との国際交流をより身近なものにしてもらえるよう、言葉だけでなく、文化、伝統等もしっかり勉強し、それを伝えていくことができると考えております。



濱 本 明 子

この度の選考試験合格にあたり、渡航までの抱負としては、まず岡山・洛陽両市の知識を深めていこうと思います。両市の歴史的軌跡と相互関係、また、現代における両市の特色・文化などの知識を身につけていきたいです。それと同時に、基礎語彙の習得にも励みたいと思います。渡航後も岡山市の技術研修生としての自覚を忘れることなく熱心に勉学に励み、帰国後も研修で身につけた事を活かせる機会があれば、積極的に参加していきたいです。



和 仁 久 見 子

日本には現在、約28万人の中国人が住んでいると言われております。私は、言葉や文化の違いゆえに、仕事や生活の上で悩みを抱えている中国人の為に、カウンセリングのサポートができるようになりたいと考えています。そのためにはまず、相手を知ること。今回の研修で中国と日本との慣習や文化・考え方の違いを学び、逆の立場を体験することで帰国後のサポート活動に繋がりたいと思っています。

第6回岡山市子供海外派遣研修

昨年7月27日から8月9日までの14日間、姉妹都市のサンホセ市（コスタリカ）、友好都市の洛陽市（中国）、アデレード市（オーストラリア）へ、それぞれ岡山市内の中学2年生と3年生15名を派遣しました。

派遣先では一般家庭にホームステイし、現地の学校を訪問して日本文化を紹介するなど生徒達と交流を深め、また各地の名所を訪問し、その国の文化に触れ理解する良い機会となりました。



▲事前研修会にてホームステイのマナーや簡単な会話の指導を受ける。



サンホセ市派遣グループ



▲サンホセ市ジョニー・アラヤ・モンへ市長を表敬訪問。



▲グラン・エスペランサ校を訪問。生徒達に「けん玉」を披露。



▲サンホセを離れる日、空港でホストファミリーに見送られる。



洛陽市派遣グループ



▲洛陽駅で熱烈な歓迎を受ける。



▲洛陽外国語学校を訪問。アルトリコーダーで「さくらさくら」を演奏。



▲送別会で劉典立洛陽市長から生徒一人一人に牡丹の絵が贈られる。



アデレード市派遣グループ



▲パラヒルズ小学校で6日間英語の授業を受ける。



▲ゴージ・ワイルドライフ・パークでワラビーやカンガルーと触れ合う。



▲銅採掘の町カバンダにある“Map, the Miner”像。

!!『在岡外国人と行く岡山新発見研修会』開催!!

協議会ボランティア通訳・翻訳登録者並びにホームステイ・ホームビジット登録家庭を対象に、毎年度1回「ボランティア通訳研修会」を実施していますが、本年度は、岡山市国際交流祭実行委員会と共催し「岡山あいフェスティバル'99」の事業の一環として、2月13日(日)「在岡外国人と行く岡山新発見研修会」を開催しました。

晴天に恵まれた研修会当日は、ボランティア20名と在岡外国人15か国28名の方々が参加されました。今回は「野崎家旧宅」(児島)、倉敷美観地区、大原美術館を訪問し、言語別に数人のグループに分かれて、ボランティアが外国人にそれぞれの場所等について説明をする形で行いました。

ボランティアの方々にとっては、外国人と訪れることにより新たな発見や語学力の向上にも繋がり、また外国人の方々は、ボランティアとの交流を通じて岡山の文化や歴史についてより理解を深めることができた研修会になりました。



▲野崎家旧宅を見学。庭や建物の様子、展示してある昔の調度品等について、ボランティアが自分の研修する言語で外国人に説明した。(写真上2枚)

倉敷美観地区の古い街並を散策しながら、参加者同士の交流を深めた。(写真右)



ボランティア活動

◀◀ ボランティア活躍記 ▶▶

「在岡外国人と行く岡山新発見研修会」への参加について～新しい出会い～

会員、ボランティア通訳・翻訳登録者
関 友 美

今回、在岡外国人の方々と、野崎家旧宅と大原美術館を見学し、倉敷美観地区を散策する機会を頂きました。

外国人の方々が3～4人、日本人が2～3人で一つのグループを作り、そのグループで主に行動をするというものでしたが、グループに関係無く、多くの方達と話すことができました。日本に来て間も無い方や、既に日本での勉強を終え、次の週には帰国される方など様々で、日本の印象や自国のことなど話は尽きず、とても楽しい一日を過ごすことができました。私も、ボランティア通訳というよりは、在岡外国人の方々の友人として、一日を過ごしたように思います。



野崎邸で在岡外国人の方々と(一番右が関さん)

帰り際には、お互いの連絡先を交換している参加者も多くおられました。このようなイベントをきっかけとして、友情の輪が広がっていくものなのだと感じました。

また、岡山に関する自分の知識不足も痛感し、これを機に勉強に励んでいきたいと考えております。

次回も、このような機会があれば是非参加させて頂きたいと思います。

友好交流サロン

外国語講座は「ハングル講座」(火、土)、「中国語講座」(火)、「スペイン語講座」(金)の3か国語で、それぞれ初級・中級の6コースを設けています。外国人を対象とした「日本語教室」(木)は、受講者のレベルに応じて、7~8クラスの編成で実施しています。

また、毎月1回「国際交流ふれあい講演会」(9月、10月、1月を除く)と外国人を対象とした「日本文化紹介講座」(9月、10月を除く)を開催しました。

1月には、「国際貢献ボランティア養成研修講座」を3回に分けて実施しました。

国際交流ふれあい講演会

岡山でも、現在さまざまな国の人たちが生活しています。これらの人々と垣根をつくることなく交流するためには、お互い理解し合うことが不可欠です。この講演会が、外国のことや外国人を理解するために役立つことを願っています。



4月 エリアシブ・ファハルドさん
「僕の国コスタリカ」



5月 リサ・ファーリーさん
「とつとも興味のある国、日本」



6月 大辻 富実佳さん、高杉 優子さん、船越 元洋さん
「私たちのふれた中国」



7月 エイミ・チャベスさん
「白石島の住民になったアメリカ人の私」



▲外国の珍しい品々を紹介



8月 南葉 道之さん
「ザンビア、南十字星と高校生と」



11月 日高 奉文さん
「憧れ、出会い、そして、今」



▲熱心に聞く参加者たち



12月 朴 運淑さん
「ともに生きる21世紀に向けて」



2月 班 偉さん
「中国人の世界観・人生観・価値観」



▲外国のお茶で接待



3月 河田 治さん
「退職後、選んだ中国留学の道」